

コラム・1

ラベンダーの香る老人ホーム

文／海野まさき（自然工房めばえ代表）

里っこくらの立上げと経緯

2006年春に開所した特別養護老人ホーム「フォーシーズンズヴィラこもれび」は、緑豊かな横浜市緑区の昔懐かしい里山の面影を残す谷戸に建っています。ガーデンにはたくさんのラベンダーとさまざまなハーブが植えられ、風によってやさしいハーブの香りが漂い、施設関係者の心をなごませます。

施設開所前に、施設側から相談を受け、自然工房めばえ（ハーバルライフ教室主宰：海野）が、施設園芸緑化と園芸療法支援の仕事を受託しました。高齢者を中心としたコミュニティづくりは、北欧などの介護スタイルを参考にしています。

スウェーデンでは、介護施設の多くは駅のターミナルにあり、住民の皆さんのよく目に留まる場所を選んでいきます。不自由な高齢者をコミュニティの中心に置き、日常の中で気軽に立ち寄れるように配慮されているのです。

そこには、たくさんの会話があり、コミュニケーションが生まれることと思います。介護施設を魅力的なものに変え、そこへ人が集まれる場をつくれればよいのではないかと考えたとき、ちょうど日本がガーデニングや家庭菜園ブームであったことと、ハーブの栽培とライフスタイルの提案に力を入れていた自分のノウハウを使って、新たな拠点作りを目指そうと思いました。

ガーデン作りと園芸レクリエーション

ガーデン作りは、ボランティアと一緒に、コツコツと土作りを行い、レクリエーションに使えるハーブや草花を少しずつ植えつけていきました。とはいえ広大な庭、レクリエーションで活用し、皆が楽しむものには、3、4年かかりました。ガーデン作りと同時に、施



施設のシンボルでもあるラベンダー



自然工房めばえ代表の海野まさきさん



6月のラベンダー祭り



隣接した畑

設利用者の園芸療法レクリエーションとして、ラベンダーを栽培し、植え替えや摘心作業を一緒に行っていました。特別養護老人ホームということもあり、思いのほか利用者の介護度も高く、杖歩行か車いすで身体的な不自由さもあったので、職員の人たちにも協力してもらいました。

車いすから立ち上がり植え替え摘心作業に没頭するおばあさんや、杖歩行のおじさんが杖を忘れてラベンダーの鉢を両手で持ち中庭まで大事そうに運ぶ姿、花を見たい!! 成長を楽しみにしている、というのは私たちと同じ気持ちであり、その皆さんの姿に、何度も励まされたものです。

今では、大株に育ったラベンダーはガーデンの随所に植え付けられ、施設のシンボルとなっています。6月には「ラベンダー祭り」を開催。オープンガーデンやクラフト作り、アロマゴスペルコンサートなど、利用者、家族、ボランティア、職員だけでなく、地域の人たちにも楽しんでいただいています。また、花壇や畑が増えるにつれて収穫物が増え、喫茶活動での調理・飲食レクリエーションや手仕事活動のクラフト制作レクリエーションなどに役立っています。

植物には、季節感や色、香り、味、感触、空気を五感で感じ、人の感情を呼び覚ます力があります。こういった植物をツールとした過程で人と人が心通わせることに、意味を生み出すことを目的とした活動が園芸療法であり、また里っこくらのコミュニティづくりへとつながるのです。

今後の目標と展開

自らの老後の人生を考えると、これからより拡大する高齢者支援の現状を知り、現場活動することが、“より良い選択”への参考になると思います。またそのことが、高齢者施設の安心・安全で、癒しにあふれた空間を生み出す提言につながるものと信じています。里っこくらのガーデンを通じた小さな日々の積み重ねの活動で、新しいコミュニケーションを生み続けていくことを目標としたいと思っています。

● 著者プロフィール ●

自然工房めばえ代表。ハーブ教室主宰。園芸からライフスタイル・ハーブや緑のある暮らしを提案。高齢者福祉施設での園芸療法活動の実務提供とガーデンデザイン、維持管理システム、ボランティアコーディネート、園芸を通じた地域コミュニティ作りの指導を行っている。
<http://www.s-mebae.com/> info@s-mebae.com